

## 事例研究報告

# 特別支援学校中学部の生徒に 自発的要求を教える

## 生徒の実態

- 知的障がいがある中学部生徒
- 今までと違う時間割や慣れていない教室への移動時に激しく体を動かし、泣く。
- 長時間の学習や何をすべきか分かりづらい状況の時にも、激しく体を動かしたり、泣くことも多い。

## 教員の考え

「適切な要求の手段を身につけて欲しい」

「問題行動を減らしたい」



## アドバイザーからの助言

「減らしたい行動」より

**「要求する行動」**

を教えることから始めましょう。



## 指導目標の見直し

### 【長期目標】

自発的に要求が伝えられることで、情緒を安定させることができる。

### 【短期目標】

困った時に相手の肩を叩き、両手を合わせて会釈して、支援を要求することができる。

### 指導目標

困った時に相手の肩を叩き、両手を合わせて会釈して、支援を要求する。

## 指導1: 身体的ガイダンスのフェイドアウト

- 【対象児】 中学部生徒  
発達年齢：2-6
- 【指導場面】 日常生活の指導
- ・着替え（朝・帰り）
  - ・給食
- 【般化場面】 学校生活全体での本人にとって困った場面

# 指導1: 身体的ガイダンスのフェイドアウト

## 【ステップ1】

2人体制で支援する。着替えと給食の、指導時間に困っている様子が見受けられた際、支援者1の肩をたたき手を合わせてお願いするよう支援者2が身体的ガイダンスをする。徐々に身体的ガイダンスをフェイドアウトしていく。

## 【ステップ2】

身体的ガイダンスをなくす。支援者1が対象生徒に対して、後ろを向く、もしくは目を合わせないようにして行動を待つ。

## 【ステップ3】

支援者1を他の担任に変更する。

## 【般化】

学校生活全体で困る場面を設定する。  
(ロッカーの前に人がいるため開けられない等)

## 記録方法と記録

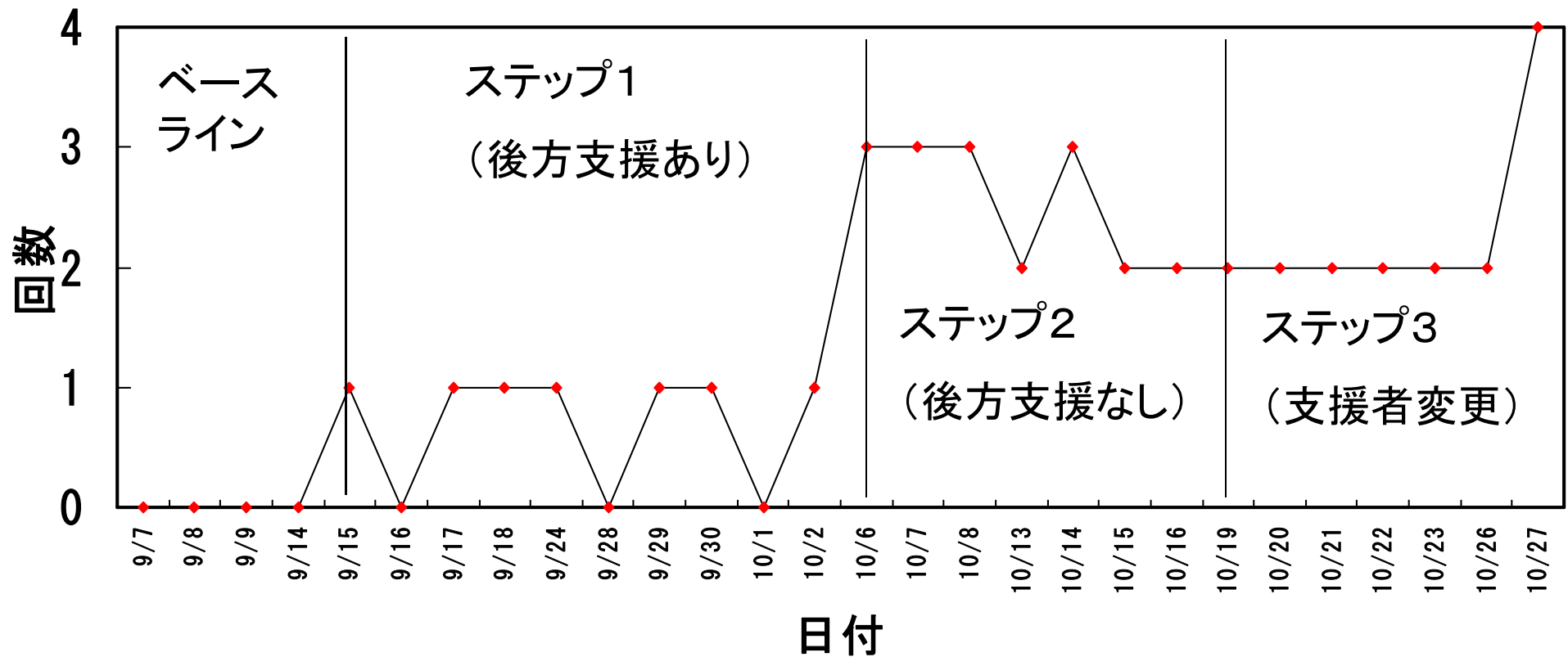
自発的にお願いできた項目に○を、その他の項目にコミュニケーションカードでの要求や指導場面以外での要求を記録しました。

グラフNo	11	12	13	14	15	16	18	19
困る状況	9月14日	9月15日	9月16日	9月17日	9月18日	9月24日	9月28日	9月29日
登校着替えの支援なし	/	/	/	△	/	/	△	
ストロー袋の支援なし	/	×	△	△	/	△	△	○
帰り着替えの支援なし	/	/	/	/	/	/	△	△
その他	/	○	△	○	○	○	/	/
合計	0	1	0	1	1	1	0	1
		国語中歌 絵本で遊 びたい カードを取 る	遅刻で着 替え無し。 梅干しを 取りたくて 教員の言 業掛けで お願いで きた。	裏返しに なった カードから 梅干し カードを 取って渡 す。	みずから ボールで 遊ぶカー ドを取っ て一人で 遊んでい た。遅刻 着替え なし	カード使 用増、トイ レ失敗4 回(トイレ の始末で 実施でき ない)歌絵 本自ら選 択	トイレの失 敗なし(定 時排尿 増)	遊びの選 択肢にな いボール をお願い ポーズを してから カードで要 求すること ができた。



# 指導1の成果

ステップ1は、要求をできた日数が7日を越えているため、10月6日以降にステップ2に移行しました。困った状況で助けを求められるようになり、激しく身体を動かして泣くことが減少しました。27年6月にはほぼ毎日であった問題行動が、28年1月は1回のみでした。



結果1:

# ここが成功のポイント



○「問題行動」に注目するよりも本人からの自発的な「要求」行動を引き出す。

○この実践と平行して遊びや欲しい物を要求するカードの使用を指導している。より多くの状況で自発的な要求ができることにより、日常生活が安定してきた。